

横浜市立大口台小学校 令和元年度 学校評価報告

重点取組分野	具体的取組	自己評価結果	総括
生きてはたらく知	① 問題を自立的、協働的に解決する学習方法の工夫。 ② 友達の考え方や意見を取り入れるトレーニング ③ 学習のトレーニングの積み重ねを行い、基礎学力の向上を図る。新しい知識や学力をつけるための土台づくりを行う。	① 小グループでの伝え合いやペア学習を行うことで、自分の言葉で考えを説明したり、お互いの考えの良さを認め合ったりすることができた。 ② YPを年間を通して取り入れた。 ③ 何度も既習内容のプリントやテストで習熟を図った。	B
豊かな心	① 道徳の授業公開を全学級で行う。 ② わくわくトライ活動では、ペア学年による活動を取り入れ、各学年でのめあてを明確にし、充実させていく。 ③ 地域や商店街、盲特別支援学校などの交流を通して、様々な人の立場の思いに触れ、自分たちができることをしていこうとする心を育てる。	① 全学級行うことができた。 ② 各学年における役割が明確になり、児童同士のコミュニケーションが活発になった。 ③ 様々な学習で地域との関わりがあり、「大口のまちに生きる子」としての自覚やまちに対する愛着が育成されている。	A
健やかな体	① 体力テストをもとに週1回体力向上の時間を運営し、体力向上や運動を習慣づける。 ② 体育協会と連携し、月1回リズムダンストレーニングを行う。 ③ R-PDCA サイクルに基く課題と成果をもとに、児童、教職員、家庭、地域、学校三師が一体で学校保健委員会を運営する。	① 縄跳びを休み時間にもやる子どもの姿が見られるなど、運動の習慣のきっかけとすることができた。 ② 体育の時間にリズムダンストレーニングを位置付けて、集中して取り組むことができた。 ③ 課題意識をもって学校保健委員会の取組をすることができた。	A
児童指導	① Y-P(子どもの社会的スキル横浜プログラム)を道徳や各教科の授業で行い、年間を通じて継続した実践をする。 ② 携帯電話やスマホの利用、犯罪や問題行動について、学校、関係機関、家庭と連携した授業を行う。	① Y-Pアセスメントを用いて、児童の実態や課題を把握し、改善に向けて実践ができた。道徳の時間の設定が難しかった。 ② 高学年を対象に関係機関と連携して出前授業を行った。	B
特別支援教育	① 特別支援を必要とする児童の個別の指導計画を作成し職員会議で教職員の共通理解を図る。 ② 適切な支援・指導の必要に応じ、関係機関との連携を図る。 ③ 校内研修で教職員の特別支援教育への理解を深める。 ④ 学習に遅れがある児童に対し、特別支援学級によるきめ細やかな指導を行う。	① 職員の共通理解を図ることができた。 ② 通級指導教室のセンター機能を活用したり、東部療育センターと連携してコンサルテーションを行って適切な支援を行うことができた。 ③ 校内研修で理解を深めることができた。 ④ 特別支援教室の担当と担任が連絡を取り合って、きめ細やかな指導を行うことができた。	A
自分づくり教育	① 「横浜の時間」を中心に、地域で体験的に学ぶ機会や年間を通じた異学年交流を積極的に設け、他者とかかわりの中で一人ひとりの自己有用感を高める。 ② 学年に応じた地域の方々や企業と関わる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意味を考える場を設定する。	・ 1年：幼保交流会 ・ 2年：地域の防災倉庫見学 ・ 3年：お店体験や地域の方と昔体験 ・ 4年：盲特別支援学校との交流 ・ 5年：トヨタ原体験・幼保交流 ・ 6年：協進印刷と連携した地域パンフレット作りなど、地域や企業と関わって活動できた。 異学年交流は、ペア学年に力を入れて活動できた。	A

学校運営協議会 地域連携	① 学校・地域コーディネーターと協働し、外部の力の効果的・効率的な活用方法を検討し、より豊かな教育活動へとつなげる。 ② 各地域の代表者の方々と学校運営協議会の意義と役割について共有し、2020 年度協議会設置に向けた準備を行う。	① 学校地域コーディネーターと連携し、行事や学習で協力を得ることができ、円滑な行事の運営や地域の材をいかした豊かな教育活動につなげることができた。 ② 地域の代表者の方々と相談し、学校運営協議会や地域支援本部の設立に向けて、人材や会則など具体的な内容を準備することができた。	A
いじめへの対応	① 児童の情報を全職員で共有し、いじめの早期発見と早期対応・家庭や関係機関との連携を確実に行う。 ② いじめの起きにくい風土の醸成に努め、児童と教職員が挨拶や気持ちのよい言葉遣いに取り組む。 ③ 人権的立場に常に立ち、いじめ、偏見、差別をなくすための授業を行う。	① 家庭と学校が連携して、いじめの早期発見、早期対応をすることができた。 ② 教職員自ら進んで挨拶をしたり、気持ちの良い言葉遣いをし、環境の向上を心がけた。 ③トラブルが起きた時には似たような状況のSSTを取り上げた。ロールプレイは効果的だった。今後は未然防止にも重点を置いて取り組んでいきたい。	A
人材育成・組織運営 (働き方改革)	① 5年以下の教職員でメンターチームを組織し、ミドルリーダーを中心に年7回の活動をし、5年以下の教職員とミドルリーダーの育成を図る。 ② 学校運営会議を月1回開催し、学校運営を組織的に行う。 ③ グループウェア等を活用し、情報の共有化を図るとともに、「電子申請システム」を活用し事務の簡便化、効率化を図る。	① メンターチームで研修や 2 回の授業研究会を行い、経験年数が少ない教員の育成ができた。 ② 学校全体にかかわる行事や重要な案件については学校運営会議で時間をかけて話し合うことができた。 ③ 打ち合わせの連絡や行事のアンケート集計で電子機器の利用により効率化をはかることができた。	B

ブロック内評価後の 気付き	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5校連絡協議会では、他のブロックで学区でもある港北小と盲特別支援学校とも懇親を深めることができた。 ○ 地区懇談会では、通学路の現状や改善点を話し合い、地域でできることについて考えることができた。また、地域の特性を生かして豊かな教育活動を深めることができた。 ○ 夏のブロック研修で行ったSDGsについて理解を深めることができた。 ○ 小小連携をする場が少なく、小学校同士の情報共有が課題である。
--------------------------	---

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員が子どものことを真剣に考えている姿勢が感じられる。 ○ 家庭訪問は家庭の様子を知るうえで有効なので、地域訪問に加え、担任と保護者の面談が必要な場合は設定できるようにしてほしい。 ○ 地域と連携した協力体制が構築されていて素晴らしい。 ○ 来年度よりスタートする学校地域協働本部を活用し、現存の活動以外についてもさらに検討してほしい。 ○ 新学習指導要領の完全実施に向け、教師の授業力向上と高いレベルでの教師の平準化が求められる。
----------------	---

中期取組目標 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○ ペア学年の活動を取り入れたことで、自己肯定感を高め、児童同士のコミュニケーションを深めることができた。 ○ 家庭・地域・関係機関との連携を図り、地域の材をいかした豊かな教育活動を行うことができた。 ○ 体育の時間にリズムダンストレーニングを位置付けて、集中して取り組むことができたり、週1回の体力向上の活動を日常につなげたりすることができた。 ○ 対話的、主体的で深い学びが実現できる教育活動の充実については、重点研を中心に取り組んできたが課題が残る。新学習指導要領完全実施するにあたり、さらなる授業の質の向上を目指していきたい。
------------------------	--

- 保護者のみなさまには、学校アンケートにご協力いただきありがとうございました。集計結果とご意見をもとに次年度以降の学校経営の参考にさせていただき、改善を図っていきます。
- ブロック内評価では、神奈川中学校ブロックの教職員の意見共有を図りました。
- 学校関係者評価では、学校づくり懇話会のみなさまにご意見を寄せていただき、集約しました。